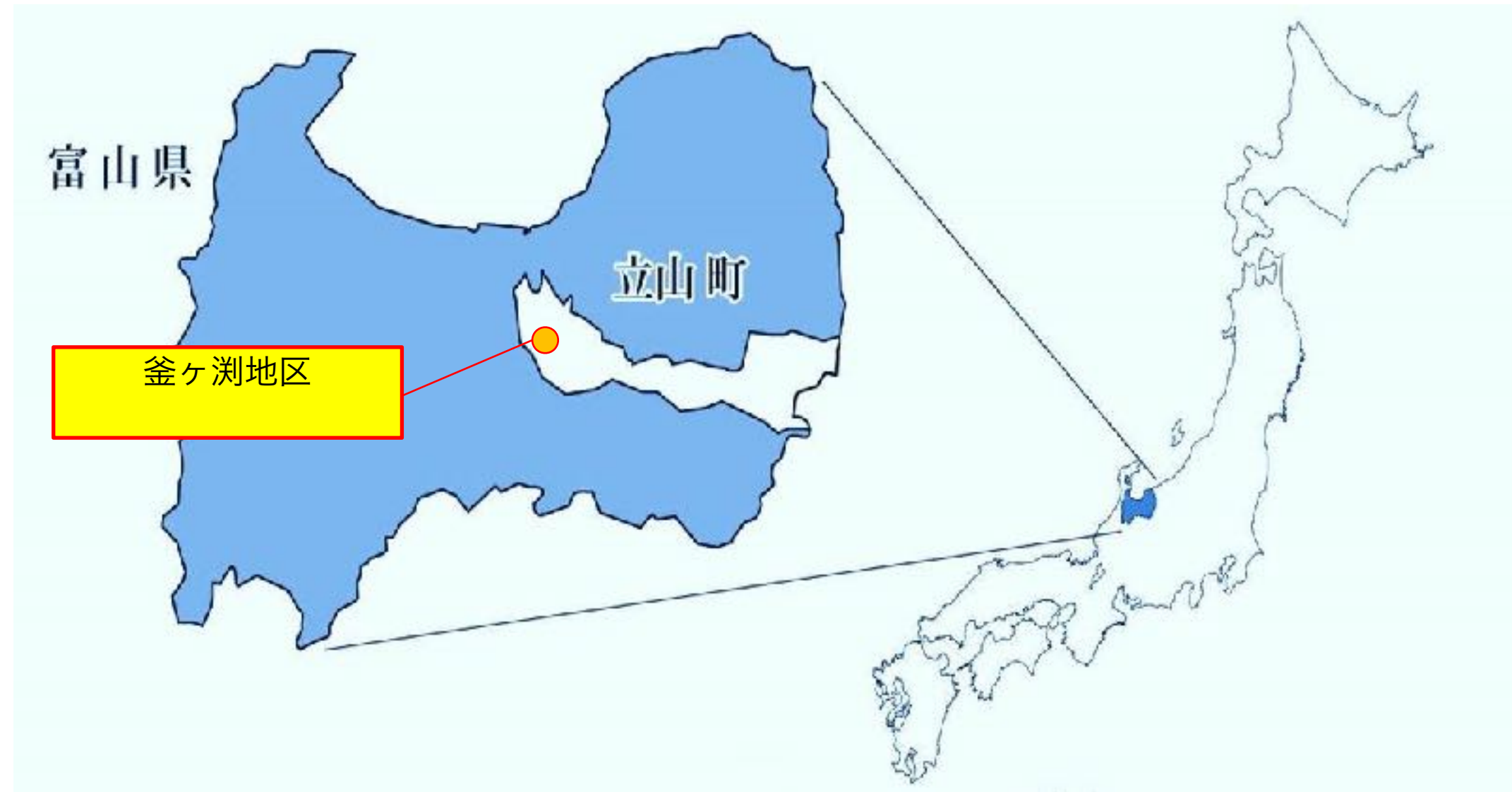




釜ヶ泷みらい協議会の取り組み

地域資源開発部長 坂口 創作（白雪農園代表）

立山町釜ヶ渚地区

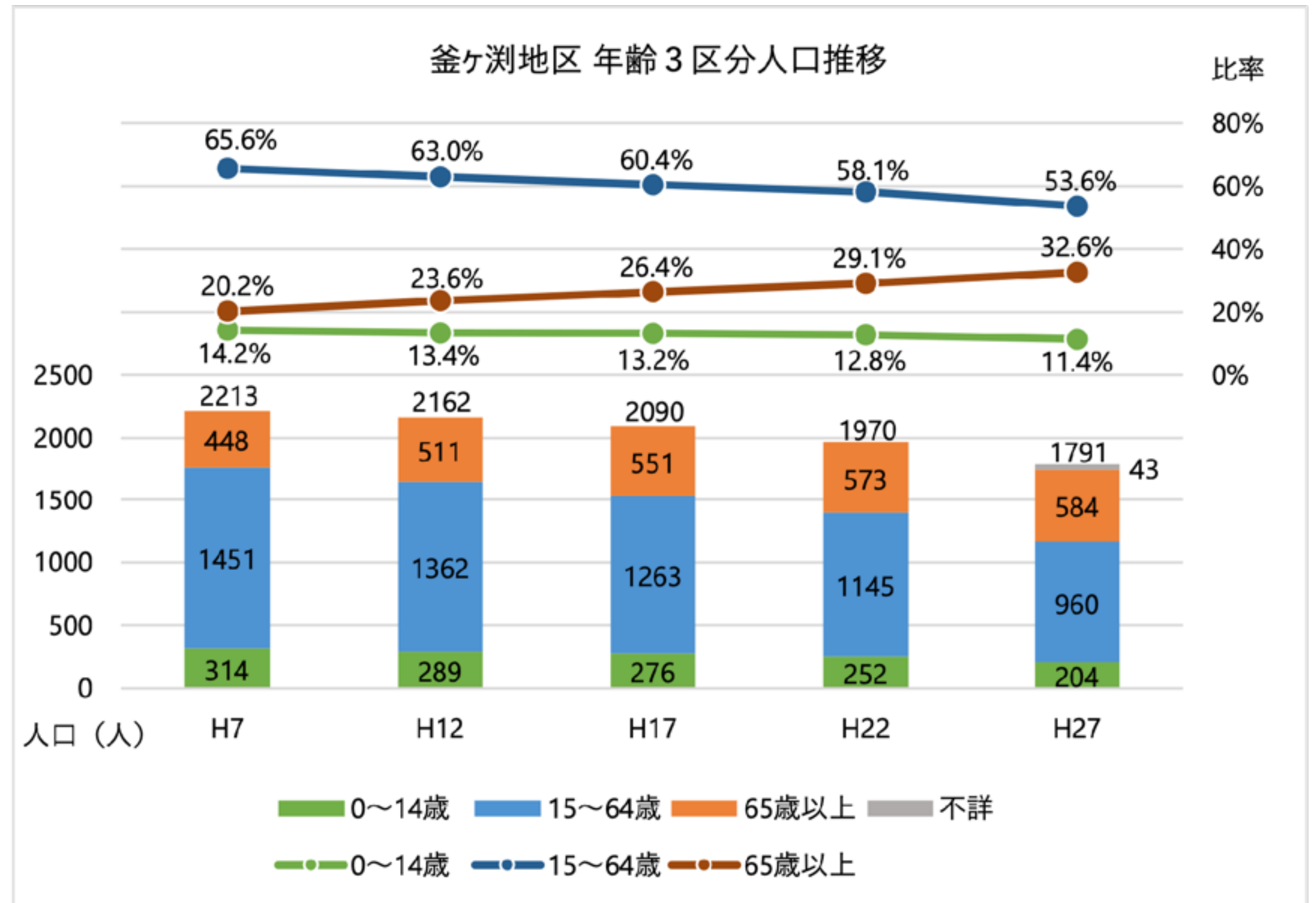


- 人口：1,581名 農地：465ha
- 立山連峰麓に広がる田園地帯
- 富山市中心から30分



立ち上げの経緯：このままではという危機感

- 人口流出（定住人口減）
- 農業者減少（耕作放棄地増加）
- 就業基盤弱（農業 & 他産業）
- 小学校存続危機(学年10人以下)



出典：国勢調査（小地域データ）

農用地保全の契機：個人取組・最適土地利用対策から出発

- 2018年：耕作放棄地を再生して「白雪農園」を開業
- 2019年：耕作放棄地管理でポニー導入し「白雪牧場」を開始
- 2021年
 - 8月 クラファンで牧場施設整備
 - 11月 地域の耕作放棄地を利活用する「最適土地利用対策」の地区会議
- 2022年
 - 4月～ 「最適土地利用対策」で養蜂開始 & 放牧場 & ハーブ畑を整備
 - 7月 「最適土地利用対策」の地区会議を母体にして、農村RMO「釜ヶ淵みらい協議会」発足

個人の取組や「最適土地利用対策」がRMOの土台に

農用地保全活動：多種多様な取り組み



稲作（自然栽培）



放牧（ポニー）



養蜂（蜜源植物）



住民農園（コミュニティガーデン）



市民農園（Commons立山）



林業（クリスマスツリー）

農地保全活動の鍵

1. 経済性

経済性の喪失 → 耕作放棄。収入（生業化）を視野に構想

2. 人を集める（担い手&買い手）

人の輪から活動とお金は生まれる。農地は粗放管理も、人集めはしっかり

3. 新しい組み合わせと発想

農業だけでなく観光、娯楽、教育、福祉、商業、文化、伝統など様々な視点からアプローチ

4. 低負荷・低コスト＝粗放管理

「最適土地利用対策」を徹底活用

5. おすすめは「米づくり」

再生面積の大きさ、経済性、人集め

釜ヶ淵みらい協議会の組織



釜ヶ淵みらい協議会
事務局

農地保全
部会

地域資源開発
部会

生活支援
部会

プロジェクトリーダー

- 若いメンバー : 事務局長・プロジェクトリーダーは40代
- 多様な参加者 : 元々の住民・移住者・地域おこし・女性
- プロジェクトリーダー制（立候補） : やる気ある人が実行役に

釜ヶ淵RMO組織の鍵

1. 仕組：プロジェクト中心で運営
プロジェクト立案・予算・実行を若手に任せる（×合議×集権）
2. プロジェクトリーダーの発掘・誘致・育成
RMO（地域）に複数のリーダー候補を確保
3. チャレンジできる雰囲気づくり
まずはアイデア出し、お手本を示す、試行錯誤を許容

參考資料

集まる移住者・新規就農者



ARTによる農地再生（白雪牧場・立山農芸祭）



立山農芸祭 22

FARM & ART FEST 22

instagram tateyama.fest

2022年11月3日(THU 祝)

OPEN 11:00 ~ CLOSE 16:00

ENTRANCE FEE ¥2000 Kids Free

- LIVE** 山田稔明 / 近藤研二 / 北村瞳 / Bisco Maruono
堀江達郎 / 草とten shoes
- FOOD** CALMET / いしころや。 / RITTA /
ごろごろ畑 / dans la nature / Mr. 玄米 and more
- MARKET** 富山の美味しい採れたて野菜・お米・ぶどう / GOODS など
- 体験** みらい研究堂・CS60 / トランポリン / タロット占い
- KIDS** 原っぱ遊び / ポニーふれあい / アートワークショップ

チケット好評発売中

お一人 ¥2000
(中学生以下は無料)

オンラインチケット www.susu.co.jp
店頭販売 白雪農園、果果 他

雨天の場合は近くの別会場(グリーンバル吉峰)にて開催いたします。その際一部の屋外プログラムは中止となります。また新型コロナウイルスの感染状況により中止となる場合がございます。荒天時も中止いたします。ご了承くださいませ。雨天時の告知は公式Instagram・果果・白雪農園のSNSにて行います。

主催 白雪農園 / 果果 協賛 釜ヶ淵みらい協議会

自然栽培産地づくり (立山農学校)

立山農学校・実践講座

釜ヶ淵みらい協議会主催

自然栽培・田んぼプログラム

荒生秀紀博士監修 @ Commons Tateyama

みんなで育て学び楽しむ自然栽培

立山農学校では、自然栽培(※)の実践学習として、市民農園・Commons立山にて有志による米づくりを行います。荒生秀紀博士の監修の下、立山農学校スタッフがしっかりサポート。農地・機械・経験がなくとも、ご参加頂けるプログラムです。「お米を育ててみたい」「自然栽培に興味がある」「運動不足解消」「美味しいお米を食べたい」「子供の体験に」など動機は問いません。メンバーで楽しくお米づくりができたと思います。皆様のご参加をお待ちしております(通年参加はできない場合は、スポット参加大歓迎です)。

※育苗で有機肥料を使用します。田んぼには一切の肥料・堆肥を不使用。



1

技術

荒生秀紀博士指導の栽培方法によって、自然栽培を行います

2

作業

参加者で協力して、田植・中耕除草・稲刈を行います

3

産物

通年参加者の方には10キロの自然栽培米を進呈します

田んぼの楽しみ

田植・手植え

中耕除草

稲刈・はさがけ

いきもの観察

どろんこ遊び

田んぼの移ろい

ゲストシェフ

ランチ

仲間との交流

自然との交感

農業機械体験試乗

昔ながらの手仕事

収穫したお米

米づくりの学び

日本の伝統理解

田園の豊かさ

Etc.



日本一駅近な市民農園「Commons Tateyama」 (移住・就農予備軍を集める)

北日本新聞 (隔日発行)

「駅近」市民農園で交流

農学学校開校し環境整備

立山・釜ヶ淵の挑戦 ④

自然栽培

農業や化学肥料を使わない自然栽培のコメ作りが学べる農学学校を開校し、耕作放棄地を再生させた市民農園で、農作業を通じて地区内外の人々が交流する。釜ヶ淵みらい協議会メンバーの坂口創作さん(左)が担当するプロジェクトだ。農園は富山地鉄立山線・沢中山駅に隣接。

「日本一駅近な農園」としてアピールしている。坂口さんは福岡市出身。大学卒業後、宇宙ロケット関連の企業で働いていたが、2018年に家族の転勤を機に東京から釜ヶ淵地区に移住した。県のとやま農業未来カレッジで学び、地区の耕作放棄地を「白雪農園」に再生させた。ポニー牧場もオープン。現在はゲストハウス運営や空き家再生、伝統文化継承などさまざまな事業を手がける。

農学学校の開校や再生農園を交流拠点にする構想は、新規就農を目指した移住者としての経験

「自然栽培や有機栽培といった循環農法は就農希望者が最も憧れる農法。海外の関心も高い」と説明。農園では自然栽培と有機栽培に特化する。交流しながら、思い思いに体験してもらい、地区と自然栽培、人々をつなぐ場として国内外に発信していきたい。

坂口さんの目標は近隣の耕作放棄地を含め、農園を広げたいこと。「地区の未来のため、新規就農者誘致や交流人口拡大につなげたい」と意気込む。

今月3日に行われた現地説明会。富山地鉄沢中山駅の隣にある



新たな生業をつくる (分散型ホテル構想)

白雪ゲストハウス 吉峰別館

Experience country life in Tateyama

白雪ゲストハウス吉峰は、立山の百姓（白雪農園）が営む農家民宿です。伝統的な古民家を移築した快適な平屋で、のんびりお過ごし頂けます。田園農村の豊かな暮らしや文化に触れる体験プログラム（オプション）も各種ご用意。皆様の立山へのお越しをお待ちしております。

- 伝統建築 枠の内造り
- 一棟貸 平屋別荘
- 牧場・農業 プログラム ご用意
- 長期・連泊 ご紹介 優遇
- 吉峰温泉 アルペンルート 観光

農家民宿「白雪ゲストハウス 吉峰別館」2023

北日本新聞

農村を分散型ホテルに

農村部に点在する空き家を宿として再生し、地域全体を一つのホテルに見立てて客をもてなす「分散型ホテル」を目指す取り組みが立山町で始まった。仕掛け人は白雪農場（同町末谷口）の代表、坂口創作さん（42）

立山の坂口さん構想

空き家再生 暮らし体験

分散型ホテルはイタリアが発祥とされる。坂口さんによると、イタリアは日本と同様に少子高齢化が進んで農村の空き家の増加が問題になっており、宿として再生して拠点を中心にネットワーク化し、観光客に農村暮らしを体験してもらおう取り組みが盛んだという。日本国内でも実現を目指す動きが出てきている。

坂口さんは立山町での実現に向け、8日に吉峰野開で町内第1号となる農家民宿「白雪ゲストハウス吉峰別館」を開業した。古民家の一部を移築した築20年ほどの平屋住宅を改装した。

海外のコンドミニアムスタイルを取り入れ、キッチンや調理器具、洗濯乾燥機などの生活用具を完備している。素泊まりの1棟貸しで、「食材キオスク」と銘

打った地域食材販売コーナーも設置した。宿のコンセプトは「暮らしに出会う」。牧場での動物との触れ合いや養蜂、農作業などの体験メニューも用意し、農村ならではの豊かな暮らしや文化に触れてゆったりと過ごすしてもらう。1泊の料金は1棟1万22万円（2人まで）で、日によって異なる。連泊割引や長期滞在割引がある。

坂口さんは今後、吉峰別館を拠点に位置付け、吉峰地区のそばにある釜ヶ淵地区で近く開業する2軒の農家民宿と連携。民泊サービスを提供している末谷口の自宅も合わせ、分散型ホテルの実証実験を行う。課題を洗い出し、予約システムや体験メニューなどの共通化を図り、来年4月から本格的に展開したい考えだ。

坂口さんは「分散型を取り入れてサービスを共通化することで、ブランド化や集客がしやすくなる。食事の提供がなく、運営の負担も減らせる」と強調する。特にインバウンド（訪日客）の取り込みに意欲を示し「町のあちこちに宿があって、日本の農村の暮らしを体験できる。そんな地域にしたい」と話している。

して 医療機関 他 の 患者 に 配慮 を

る15し 捕捕罪ンチ籍窃日県と



町内の交流施設に集まり交流するスタッフや利用希望者ら

「里のようちえん」プレ開園 白雪牧場拠点 自然体験を重視

苗 自然活動を通じて子どもの自主性や感性を育む保育施設「里のようちえん たてやま」が2日、立山町末谷口の白雪牧場にプレオープンした。運営するのは認可外保育施設「森のようちえん まめでっぼう」（富山市婦中町東谷、五十嵐恵美代表）。9日からの活動本格化を前に、関係者らが町内で意見交換して交流を深めた。

森のようちえんは、同市婦中町東谷の施設を拠点に、自然体験を重視した保育を行う。今回、森のようちえんのマルシェに出店する「Mr.玄米」こと大石雅和さんが牧場との間をつ

ないだ。町地域おこし協力隊員の大石さんと牧場代表の坂口創作さんは釜ヶ沢地区の活性化プロジェクトに取り組む仲間。立地環境が姉妹園設立を目指す施設側の思いにぴったりだった。

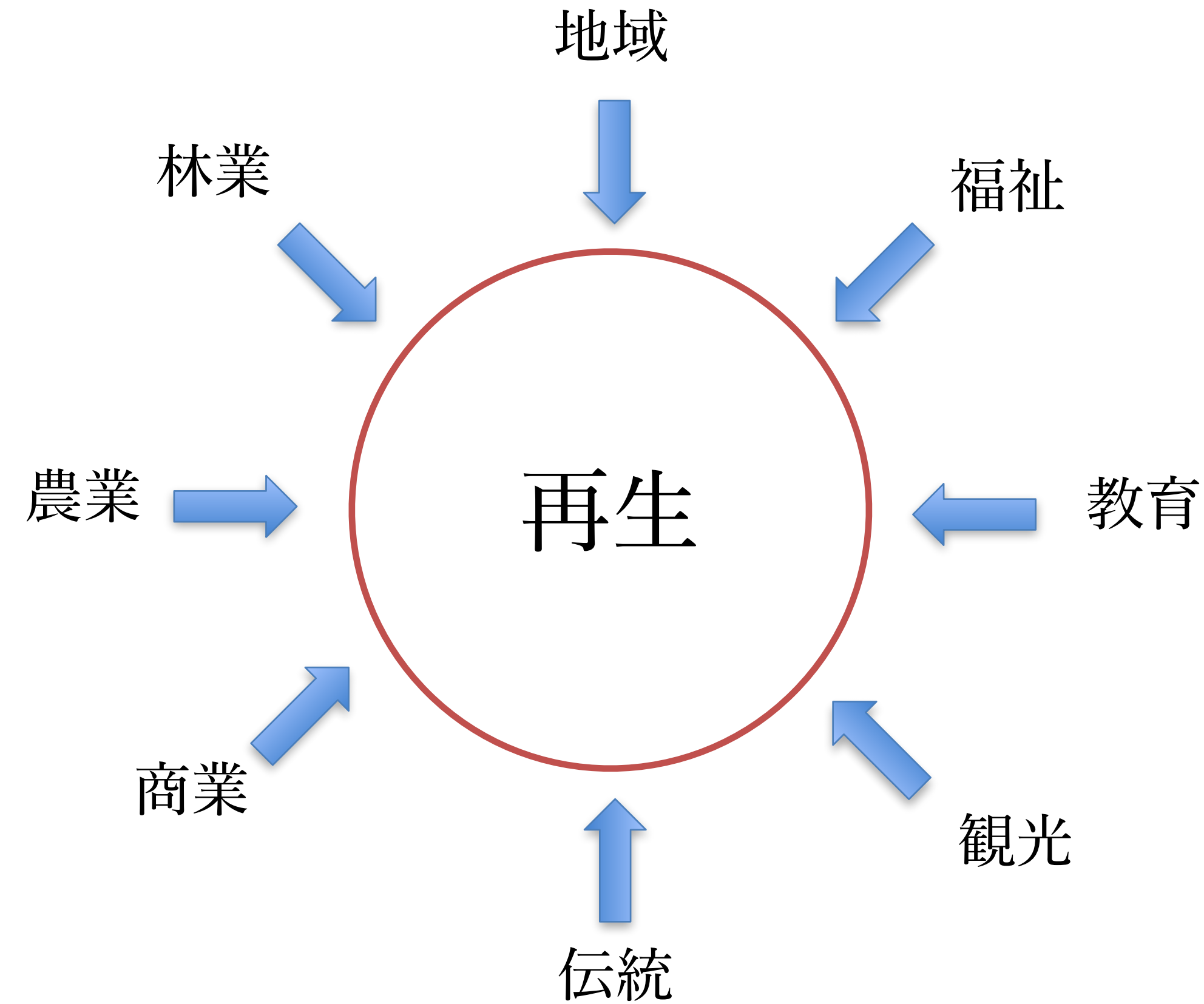
里のようちえんでも、ポニーの親子が暮らす開放的な場所を生かし、里山の自然や人の営み、文化に触れる保育を行う。

2日は豪雨が予想されたため、牧場近くの交流施設「谷口集学校」（谷口）にスタッフや地元協力者、利用希望者が集った。当面は毎週金曜の午前10時〜正午に開園する。将来的には時間を延ばし、月々金曜の開園を目指す。未就学児の親子や保育士、賛同者を募集しており、フェイスブックページ「里のようちえん たてやま」に情報を載せている。



再生 = 組み換え

百姓 = 多様な営みとつながり



新たな組合せと循環をつくり再生